

ホタルのまち

きよたを目指して

～札幌清田ホタルの会～

今月は、ホタルの飛び交うきれいな街になることを願い活動している清田の“ホタレンジャー”「NPO 法人札幌清田ホタルの会」の取り組みを紹介します。

平 岡公園に自然のホタルが
生息しているのを知って
ますか？

7月中旬、公園内にある湿地で、ヘイケボタルが光りながら闇夜を舞う姿を見ることが
できます。

平成7年の調査では約1千匹確認できていましたが、平成9年には約300匹、さらに昨年は約120匹とその数が減少しているそうです。

札 幌清田ホタルの会（以下「ホタルの会」）は、平岡公園に生息しているホタルを守ろうと、平成10年に発足。

平成16年にNPO法人を取得し、現在は森田義男理事長を先頭に、正会員22人（ほかに賛助会員あり）で活動しています。

8月頃に産まれたホタルの卵は、会員の自宅で大切に飼育されます。幼虫は翌年6月上旬、平岡小学校の児童とともに、無事に育つようお願いを込めて区役所裏の池へ放流。7月中旬には観賞会が開催され、昨年は4千人を超える皆さんが訪れました。

区 役所裏の池は、「ホタル池」と呼ばれています。

ホタルの生育場所を探して

いた同会が、区役所の裏にわき水があることを知り、またホタルの生息条件に適した環境であったことから、区と協働で整備を開始。平成11年12月に、全長40メートルの水路が完成しました。

その後、ホタルが飛んでいかなないように囲いをしたことにより、ホタルの観賞を楽しめるようになりました。

ホ タルを初めて見た子どもが「ホタルは触ってもやけどしないの？」と不思議そうに見ていたんですよ、と丹野顧問。

「子どもたちが身近な場所でホタルを見たり触ったりすることができるといい環境をつくり、ホタルを通して自然の大切さを区民と学んでいきたい」と森田理事長は話します。

自 然環境が破壊されていくことは止められないが、自然と共生していく環境をつくることはできる。ホタルの飼育にとっても熱心だった故長井副理事長のことばです。

ホタルの会は、ホタルが飛び交う自然環境を守り、次の世代の財産として引き継いでいくために、これからも活動を続けていきます。



- 1 ヘイケボタルの幼虫
- 2 ヘイケボタルの成虫
- 3 ホタルの光の軌跡
- 4 札幌清田ホタルの会の皆さん